

京都府南部地域における発達障害児の専門医療あり方検討会の概要

1 検討会の目的

全国的な少子化においても、京都府南部地域では人口流入や出生数の増加が見込まれ、今後も発達障害児への支援ニーズの増加が見込まれることから、京都府南部地域における発達障害児の専門医療のあり方について検討する。

2 委員

荒木 穂積	立命館大学大学院人間科学研究科教授【座長】
禹 満	京都府医師会理事
平井 清	京都府立こども発達支援センター所長
長谷川 福美	京都府発達障害者支援センターはばたきセンター長
岡 美智子	京都府自閉症協会会長
村田 浩子	長岡京市健康福祉部健康医療推進室主幹
山田 睦美	京都府教育庁指導部特別支援教育課長

3 開催状況

- 第1回 令和2年10月6日（火）
- 第2回 令和2年11月9日（月）
- 第3回 令和2年11月30日（月）

4 検討会での意見

- (1) 京都府が子育て環境日本一を実現する上で、発達障害分野における安定的な医療提供体制の確保は極めて重要な施策であり、南部地域における医療的支援の拡充が必要
- (2) 支援ニーズが過度に医療分野へ偏重する傾向に対し、医療的支援の量的拡充のみでは根本的な解決に至らないことから、医療機関に診察前インテークの機能を付加するとともに、保健、福祉、教育の機関連携によるスクリーニング機能を確保し、発達障害児と保護者が適宜・適切にニーズに応じた機関へ繋がることのできる地域連携体制の整備を図ることが重要
- (3) 乙訓圏域では、「長岡京市共生型福祉施設構想」に基づき、福祉と教育の緊密な連携を基盤とする児童発達支援センターの設置が予定されていることから、京都府がここに専門医療を充足し、新たな連携モデルの拠点として位置付け、発達障害児支援の多分野連携を促進することが効果的

※当検討会の報告を踏まえ、具体的な対策等について関係機関と引き続き協議予定